

教員の長時間労働問題に関する一般質問の概要

～現状・課題・取組・今後の方向性～

1 背景・問題意識

- 全国で教員不足が深刻化（計画より2,558人不足）
- 教員採用試験の競争率は平成12年の13.3倍から令和2年は3.9倍まで低下
- 教員の長時間労働が志望者減少の大きな要因
- 富山県滑川市の中学校教員の過労死裁判で学校側の安全配慮義務違反が認定（約8,300万円の賠償）

→ 本市としても、教員の働き方改革を早急に進める必要がある。

なぜ
教員不足が
起きているのか？



2 国・県の状況（文部科学省調査より）

教員採用試験の競争率の推移
（全国 小・中・高・特支の総計）



教員不足の状況
（令和3年4月始業日時点）

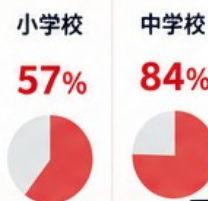
全国 **2,558人不足**
青森県
・小学校 9校で12人不足
・中学校 4校で5人不足
・高等学校 1校で 1人不足
・特別支援学校 2校で3人不足

3 市内の現状（教育長答弁より）

教員配置の状況
（令和3年度始業日時点）

全13校のうち
2校で2名が欠員
→ 臨時講師で対応し、通常どおりの学校運営を実施

時間外勤務の状況
（令和3年6月調査・月45時間超）



4 教員が時間を取られている主な業務

（東洋経済新報社アンケート調査より）

- 1位 授業準備（教材研究など）
- 2位 会議・打合せ
- 3位 事務・報告書作成（成績処理など）
- 4位 行事の計画・運営
- 5位 保護者対応・生徒指導 など



5 主な質疑応答の内容



Q1：当市の教員は計画どおり配置されているのか。業務負担の現状と課題は。

A（教育長）

13校中2校で2名が欠員。臨時講師で対応。月45時間超の教員は小学校57%、中学校84%。授業準備や事務作業、行事、保護者対応などが要因で、業務の複雑化が課題です。



Q2：業務の中で、最も時間がかかっているものは何か。

A（教育長）

特定の一つではなく、授業準備のほか、行事や事務、保護者対応など多岐にわたる業務が重なり、全体として時間を取られている状況です。



Q3：校務支援システムはいつ導入するのか。

A（教育委員会事務局長）

令和5年度以降、できるだけ早期に関係部署と協議し、導入したいと考えています。



Q4：部活動の地域移行についての考え方は。

A（教育長）

国・県の動向を注視し、地域人材の確保などを進めながら、合理的で効率的な部活動の推進に取り組みます。



6 現在の取組（教育委員会）

タイムカードによる
勤怠管理



勤務実態の把握と
業務の見える化

部活動指導員の配置



中学校の運動部活動に指導員を配置し、教員の負担を軽減（令和2年度～）

クラウドによる
教材共有



市内13校でデータを共有し、教材の再利用により業務を効率化（令和2年度～）

業務指導・意識改革



管理職による業務指導
定時退勤日の設定
計画的な業務の実施

7 今後の方針・取組計画（教育委員会）



統合型校務支援システムの導入
（令和5年度以降、早期に導入を目指す）



教員の意識改革と
業務効率化の推進



部活動の地域移行
（国・県の動向を注視し、検討）



教員の健康管理・
メンタルヘルス支援の充実

8 目指す姿



- 教員の長時間労働の解消
- 教育の質の向上（授業準備・自己研さんの時間確保）
- 教員志望者の増加
- 子どもたちにとってよりよい教育環境の実現

先生のゆとりは
子どもの輝きに
直結する。

